

世界のマンダリン市場(抜粋要約)

[FreshPlaza](#) 2025年11月21日

2025年の世界のマンダリン・クレメンタイン市場は、各国で天候、変化する需要パターン、市場での競争、変動する貿易動向等の影響を受け、複雑な様相を呈している。主要生産国ごとの状況は以下の通りである。

イタリアではクレメンタインが小型柑橘類総収穫量の約81%を占める。カラブリア州が3分の2を生産し、近年は45万トン前後で安定しているが、今年は主要産地で春の異常気象が着果に影響し、収穫量が15~20%減少した。価格は安定しているものの、果実の小玉化や着色遅延が課題である。晩生品種への投資や消費者教育が必要とされている。ポーランド等東欧諸国では高品質果実への需要が高まっている。

スペインでは成熟の遅れと南半球産との競合により、早生品種が市場で苦戦している。クレメヌール等中生品種の減産が見込まれる一方、後半には高品質果実の供給が期待される。夏季の園地契約価格は高かったが早生品種の市場価格は契約水準に届かず、中生品種の出荷が始まっても未収穫果が相当量残った。新植園地の成園化により供給量の増加が長期的に続くと思われ、国際的競争圧力は引き続き強い。

オランダでは需要が低迷していたが、寒さの到来により回復傾向にある。葉付きロレンティーナ品種の価格は12~13ユーロ程度である。モロッコ産クレメンタインも入荷し、ピトゥフォ品種も入荷予定である。

ベルギーでは南アフリカ産からスペイン産のクレメンタインへの切り替えが進み、品質と味が重視されているが、現在は十分な量の入荷があるため品質とサイズが良好な果実が供給されている。

ギリシャは天候に恵まれ、品質とサイズが良好で、高い需要が期待される。生産量は前年並みだが、一部では干ばつによる水位の低下が見られる。ギリシャ産マンダリンは主にEU域外の国々との競争に直面している。

ドイツのクレメンタイン市場はスペイン産が主導し、イタリア産とギリシャ産が補完的に供給されている。ウンシュウミカンもスペイン産が中心で、トルコ産がそれに続いた。マンダリンは南アフリカ産が依然として存在感を示しており、南米、スペインからの入荷もある。需要は秋の寒さで増加し、供給はそれに見合っている。

フランスではスペイン産、イタリア産、コルシカ産のクレメンタインが供給され、特にコルシカ産カフィン品種の品質が高く、需要を支えている。今週は、非常に高品質なフィースドコルス品種の販売も始まり、今年はやや数量が少なく、価格は高めだが合理的な範囲である。寒さの到来で消費の一層の増加が予想される。

北米ではカリフォルニア州産クレメンタインの収穫が始まり、数量はやや少ないものの食味は過去20年以上で最高水準と評価されている。雨による収穫遅延を避けるため事前に収穫を進め、在庫がやや多くなっている。サイズは24~28を中心として良好で、需要も安定している。価格は前年よりやや低い。クレメンタインの出荷は1月中旬まで続き、その後タンゴ、続いてマーコットに移行する予定である。

南アフリカの2025年のマンダリンの出荷は、5,350万箱に増加し、既に終了した。中東及び極東市場では供給過剰となり、特にシーズン序盤ではオレンジの方が有利とされた。オレンジへの米国の関税免除はマンダリンには適用されず、業界は理解に苦しんでいる。輸出に占める米国市場のシェアは6%から5%に減少したが、ロシア向けは11%に増加し、欧州は3分の1を吸収した。アジア向けは9%に拡大した。

エジプトは隔年結果の表年に当たり収穫量の増加とサイズの大玉化が見込まれるが、価格は前年より低い。ロシア市場は昨年からの低迷している。2024/25年度のマンダリン総輸出量は24万5,764トンで、前年の30万7,946トンから減少したが、うちロシア向けは前年の13万6,023トンから11万4,700トンに減少した。

モロッコではナドルコットの栽培許可拡大で輸出量が急増し、2024/25年度には前年比43.81%増の32万5千トンを生産者が4つの主産地で栽培しており、降雨の改善が拡大を支えた。

インド市場では中国産マンダリンが早期に入荷し、甘さと外観で小売りでの人気を得ているが、果皮が薄いこと流通上の管理が重要である。南アフリカ産は品質が安定していて高級小売市場で人気があり、10kg箱の価格は18~20米ドルである。中国産の価格はより競争力がある。消費者需要はオレンジからマンダリンへ移行しており、輸入業者は価格、品質の安定、棚もちを重視している。オーストラリアも主要な供給国である。